一つの花

今西　祐行作
松永　禎郎絵

教科書68～49ページ

ふりがなを見ながら、
音読しましょう

一つの花

今西祐行 作
松永禎郎 絵

「一つだけちょうだい。」

これが、ゆみ子のはっきり覚えた最初の言葉でした。

まだ戦争のはげしかったころのことです。

そのころは、おまんじゅうだの、キャラメルだの、チョコレートだの、そんな物はどこへ行ってもありませんでした。おやつどころではありませんでした。食べる物といえば、お米の代わりに配給される、おいもや豆やかぼちゃしかありませんでした。

毎日、てきの飛行機が飛んできて、ばくだんを落としていきました。

町は、次々にやかれて、はいになっていきました。

ゆみ子は、いつもおなかをすかしていたのでしょうか。ごはんのときでも、おやつのときでも、もっともっとと言って、いくらでもほしがるのでした。

すると、ゆみ子のお母さんは、

「じゃあね、一つだけよ。」

と言って、自分の分から一つ、ゆみ子に分けてくれるのでした。

「一つだけ——。一つだけ——。」

と、これが、お母さんの口ぐせになってしまいました。ゆみ子は、知らず知らずのうちに、お母さんのこの口ぐせを覚えてしまったのです。

ここまでが、1の場面になります。

1. 読めなかった漢字があれば、教科書にふりがなをつける。

今回の学習はこれでおしまいです。
がんばりましたね！